

令和８年度第１回向日市障害者計画策定委員会 会議録

- 1 日 時 令和８年７月２８日（火）午後１時３０分から
- 2 場 所 永守重信市民会館 第１会議室
- 3 出席者 （委員）１３名
田村委員長、内方副委員長、大橋委員、岡崎委員、増田委員、河嶋委員、
梅垣委員、小林委員、山田委員、岡田委員、奥野委員、和田委員、大塚委員
（事務局）７名
向日市市民サービス部 柴田部長、伊藤副部長、向日市市民サービス部障がい者
支援課 依田課長、熊上担当課長、谷澤主席係長、沼田主任、中田主査
（傍聴者）なし
- 4 内容
 - (１) 開会
 - (２) 議事
 - 議題１ 第４次向日市障がい者計画骨子案について
 - ・計画策定について
 - ・向日市の現状
 - ・意識調査の分析
 - ・計画の体系（案）
 - ・基本理念・基本目標
 - 議題２ 第８期向日市障がい福祉計画及び第４期向日市障がい児福祉計画骨子案について
 - ・計画策定について
 - ・計画の体系（案）
 - 議題３ 第３次向日市障がい者計画、第７期向日市障がい福祉計画及び第３期向日市障がい児福祉計画の進捗状況について
 - 議題４ その他

【概要】

(1) 開会

(2) 議事

議題1 第4次向日市障がい者計画骨子案について

事務局から、第4次向日市障がい者計画の計画策定について、報告をした。

<委 員> 13 ページの意識調査のところで、障がい者手帳をお持ちの方や市内のサービス事業所を対象に、とあるが、市外のサービスを利用している方のヒアリングはしているのか。

<事務局> 向日市内にお住まいの方に対して、サービスを提供している事業所に調査している。例えば京都府以外の事業所でもサービスを提供している所にはヒアリングをしている。

<委 員> 配布数のところも市外の事業所も含まれるということか。

<事務局> おっしゃるとおり。

議題2 第8期向日市障がい福祉計画及び第4期向日市障がい児福祉計画骨子案について

・計画策定について

事務局から、第8期向日市障がい福祉計画の計画策定について、報告をした。

<委員長> 第4次向日市障がい者計画の策定期間10年と比べて、3年毎になる。今の課題に対してどのように力を入れるのかご意見等いただけると、より計画が具体的になると思うが、いかがか。

<委 員> 3年前は計画相談が足りないという課題が挙がっていたが、今は待機の方も解消されつつある。最近は、放課後等デイサービス、児童発達支援、就労継続支援B型など新しい支援ができていますが、それらが利用者のニーズに合っているのかしっかり確認して、計画を進めていただきたい。

<委 員> 災害があった時に、京都府の歯科医師会から、災害派遣の依頼があったり、ヒアリングがあったりするが、向日市で大きな災害があった場合に、DMATなど医療的なバックアップを京都府にお願いするようなパイプはあるのか。

<事務局> 的確な答えかどうかはわからないが、京都府の方で、医療機関やDMATとの連携はされていると思うが、市としても連携をしていかなければいけない。福島の災害の時なども、京都府が支援に行く市町村等を調整した上で、派遣依頼を行っていて、向日市も派遣していた。

<委 員> 市単位というよりは、府単位ということか。

<事務局> 医療の派遣については府単位である。

- <委 員> 命にかかわる治療を受けている方や障がいのある方の中には、医療デバイスをつけている方もいらっしゃるし、災害時のケアも大切でそれが出来ないところで私たちが手を差し伸べないといけない。そういった分野が重要になってきているので、お互いにバックアップが出来るような体制をとれたらいいかなと思う。
- <委 員> DMA Tについて、多分府がやっておられて、災害が発生した際に府から派遣可能か問合せが入ったことがある。実際に4、5年前に岡山で水害があった時にもうちの職員が現地入りしていたので、おそらく都道府県単位で連携を取る体制じゃないかと思う。
- <委員長> 災害時支援の医療体制ということで、府が中心に計画をしているが、市の方でもきめ細かく対応できるような形にした方がいいという意見である。
- <委 員> 先ほど3年前と比べて計画相談が増えているという意見があったが、増えている割には先ほどのアンケートで相談員の充実を求めている方が18歳以上で多く、18歳未満でも上位に上がっている。基本目標2で、前回までは「障がいのある子どもへの支援体制の強化」となっていたのを今回は「充実」にしているが、まだまだ強化が足りないと思うし、支援ももっと充実していただきたいと18歳以下の子を持つ親として思う。
- <委員長> 一言で言うと、まだまだ足りないということである。
- <委 員> 権利擁護のところで、認知症の方も併せてと説明されたと思うが、身体障害者手帳をお持ちの方で65歳以上の割合が多いとなると、介護保険を使えるが、加齢に伴い病気などで手帳を取られた方の意見も含まれてくる。そうすると障がいがある方達のサービスへの意見やニーズが薄まってきたりはしないか。もともと障害者手帳をお持ちなのか、加齢に伴って病気などで障害者手帳を取られたのかで、サービスの利用の主体・方向性が少し違うように思う。その区別や差別化などについて考えはあるか。
- <事務局> 7月から向日市社協に権利擁護支援推進センターを委託しており、成年後見制度のご利用に関して、啓発や利用の対象の相談などを始めている。高齢で障がいのある方で65歳以上の方は介護保険のサービスが優先になるかと思うが、障がい福祉サービスを併用される方もいる。そういった方も含めて成年後見を始めとした権利擁護を進めていきたいと考えている。
- <委 員> 障がい福祉サービス等に対するニーズや生活状態の把握ということで、昨年度アンケート調査をされ、今年は障がい児者団体のヒアリングを行われる予定だと聞いている。これらの情報は結構大事だと思うが、こういった意識調査の把握に関して、これまでどういうことをやってきたのか教えていただきたい。
- <事務局> 当事者の意見を丁寧に聞くということは、法律でも定められており、法に基づいて令和7年の9月から10月にかけてアンケートを行い、障がい者の方からのご意見を頂戴した。その3年前の令和4年にも福祉計画策定のために当事者アンケート、団体ヒアリングを行っている。今年度も次期計画策定に

向けて、7月から8月にかけて、庁内の関係部署や15の団体に対してヒアリングを予定している。その中で実際の現場での意見をお聞きして、計画に反映していきたいと考えている。

<委員長>

補足になるが、今年、これからの障がい児入所施設の在り方検討会の報告書が出ているが、障がい児施設に入っている子ども達の意見をヒアリングするという手法を初めて取った。いつも職員や母親ばかりに聞いていたが、入っている子ども達がどう思っているのか、寂しいのか寂しくないのか、長く居すぎなのか居すぎでないのかなど、それを前面に出すということではないが子どもであっても当事者の意見を聞き、職員などの意見と同等に扱うという手法を取ってきた。

今後恐らく、そういった当事者の意見をしっかりヒアリングして出すということは、更に重要になってくると思う。大人の方についても、本人の意見をしっかり聞くことが、意思決定や意見表明に関わって、重要になってくると思うので、できれば本人がどんなことを感じ、願っているのかを座談会などで意見表明してもらうことが大事なのではないか。

<委員>

時々思っていることだが障がいのある兄弟がいるヤングケアラーの意見というか気持ちも聞いてみたい。障がいがある兄弟と通院されている子もいる。医療デバイスがついていて、バギーのお子さんとか、その兄弟がどのような気持ちでいるのか、幼稚園児に聞くことではないが、小学生高学年位から高校生や大学に入るくらいまで、その子がどのような気持ちでいるのか拾ってあげないといけないのではないかと思っている。

<委員長>

法律でもだんだんとそうやって本人中心にシフトしていて、本人に対する法律と、家族の支援に対する条項というふうに、医療的ケア児の支援法も分かれていることもある。今言われたように兄弟が感じていることも、家族を支えるという意味ではしっかり把握をする必要があると思う。

<委員>

基本目標2で「障がいのある子どもへの育ちに応じた支援と教育の充実」と文言が変わっているが、どのようなイメージで変えられたのか。

<事務局>

こども家庭センターや児童発達支援センターが開所されたので、それらと健康推進課と子育て支援課、場合によっては子ども家庭課と連携を取りながら、丁寧な療育を実施していくというイメージとなる。

○計画の体系（案）

事務局から、第8期向日市障がい福祉計画の計画体系（案）について、報告をした。

<委員長>

これまでの説明とほぼ同様な章立てになるのではないかとということで、構造的な形で表してみたということである。この辺りを強調して欲しいとか重点項目にして欲しいなどを含めてご意見はないか。
また後程ご意見があれば出していただきたい。

議題3 第3次向日市障がい者計画、第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画の進捗状況について

事務局から第3次向日市障がい者計画、第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画の進捗状況について、報告した。

- <委員長> 令和8年度は5月末現在のサービス利用量である。100%を超えているものがあるということと、それらについては適切に評価し計画に反映していきたいということである。この進捗状況についてご意見やご質問はあるか。
- <委員> 7ページの向日市重度障がい児者入院時コミュニケーション支援事業とは、具体的にどのような支援か。
- <事務局> 入院されている障がい者の方に対してのコミュニケーション支援となる。ここ数年間で利用者は0人である。
- <委員> ここ数年間はないということであるが、計画の見込が73とあるのがよくわからない。
- <事務局> 計画の見込値の立て方は、国の指導に基づいている。令和3年度から5年間の目標が146であった。障がい福祉計画が3年ごとの見直しなので、そこから半分に減らして73となっている。
- <委員> 重訪の制度を利用するように切り替わってきた経緯があるので、0になっているのではないか。制度として相談支援の方が知らないというのではないと思うが、これは地域生活支援事業としての向日市の制度であって、その辺りの理解や説明も必要だと思う。
- <委員長> 入院時のコミュニケーション支援事業ということで、入院時の介護の大変さや病院側の受け止めの大変さのつなぎとしての人手の確保のところで、重度というのがどこまでの重度が重訪の対象になるのかなど線引きをしなければいけないところもあるが、ずっと0人だと線引きしても使われないと寂しい気がする。重訪が使えない人がこの制度なら使えるのかどうか、市の条例をみないとわからないが、対象が同じであればいいのではないか。
- <委員> 行動援護のところで、令和7年度で121.1%、令和8年度の5月時点で118.4%ということで、あと半年以上どうするのかというような数字になっているが、行動援護を必要とされている方は近年増えているように感じているし、ガイドヘルパーさんが忙しくて利用したくても利用できないという現状がこの数字に表れていると思う。
- <委員長> 行動援護のニーズが増えているが、供給体制が追いついていかない。その辺りに対する手立ても含めてということであるが。
- <事務局> 資料の一部補足になるが、数値については令和7年度だと3月末時点での月平均になり、令和8年度だと5月末時点での月平均になる。積み上げではない為、今後の利用者数については若干上下すると思われる。
- <委員長> 4月5月とふた月分しかないが、そこでかなり伸びているということは、全体的に伸びているのか。それとも今言われたように行動援護のところが伸びているとか特徴みたいなものはあるか。
- <事務局> 行動援護に関しては、令和3年度では平均利用者人数が27人だったのが、

53 人と大幅に増えている。他に同行援護は、月平均 9 人だったのが、8 年度は 8 人だったので増えてはいない。行動援護と居宅介護に関しては年々増加している。

＜委 員＞ 拠点整備をされて動き出しているが、数値目標ではなく、全体の理念などを含めてどのように反映されていくのか。例えば拠点整備の中で緊急一時保護としてショートステイで 3 名の枠を設定すると初めて明確に言われたが、それを具体的にどのように計画に落とし込んでいくのかなど、その辺りの考えはあるのか。

＜事務局＞ 地域生活支援拠点に関しては、基本計画というよりは福祉計画の方で地域生活支援拠点について書くようにと国から指針が出ている。これは 2 市 1 町でやっていることでもあるので、また調整をさせていただきたい。

＜委 員＞ 数年前に具体的な数値目標のところで、20 人のグループホームを作ることが明確になっていたので、ショートステイの人数やグループホームの人数の目標値を増やしたらどうかと言ったら、目標値が増えたことがあった。それが妥当だったかどうかはわからないが、そのようなことがあったので、今回の拠点整備の中でもどのように落とし込まれていくのかを私達も丁寧にお聞きしながら声を挙げていく必要があると思う。今度の計画にどのように書けばみんなが納得できるのか、どのように落とし込んでいくのかという考えがあればお聞きしたかった。

＜委員長＞ ご意見としてお聞きした。文章的には資料 1 の障がい者を取り巻く状況のところで地域生活支援拠点について入れることができると思うが、量的にどう表すかどうかは、圏域での話になるので、直接市の計画に落とし込むわけにはいかないのか、注意書きがないと加えられないのか、あるいは別立てで拠点だけの計画を作っておくのがいいのかもしれないが、また各団体と検討の場があるようなので、そこで検討していただくといいと思う。

＜委 員＞ 2 ページの就労支援 A 型と B 型のところで、長岡京市と向日市で A 型 B 型の数も違っているし、長岡京市の方が数が多い。A 型が減ってしまっただけでも無く、その代わり B 型が増えている。B 型が増えていることによって、合わなければ辞めて、また違う所を選べるという良い点もあるが、そのような話も長岡京市がほとんどで、向日市で A 型 B 型が増えたという話は聞かない。先ほど A 型も増えているとおっしゃったような気がするが、実際はどうか。

＜事務局＞ 事業所については現在圏域に A 型は 6 カ所あり、向日市は 3 カ所と、昨年度から増えてはいない。B 型は昨年度 18 カ所だったのが、今年度 24 カ所に増えているが、向日市は 5 カ所で増えておらず、おっしゃるように長岡京市の方が 6 カ所増えているという状況である。

議題 4 その他

(事務局から今後のスケジュールについて説明)